TOP MUSEUM

やさしい見どころガイド

大束元 《夜空の構成 数寄屋橋にて》1958年

ゼラチン・シルバー・プリント

東京都写真美術館 WEB

発行日：2024年6月
編集 ・発行：東京都写真美術館
やさしい日本語にした人：なかのけいこ（東京都写真美術館）

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

Creative Well-being Tokyo
だれもが文化でつながるプロジェクト

TOPコレクション

「時間旅行」

2024年4月4日（木）－ 7月7日（日）

東京都写真美術館

3階展示室

あいさつ

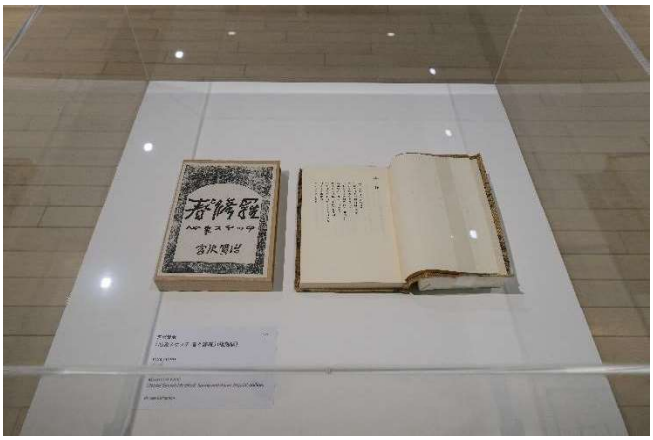
この 展覧会は、「時間旅行」を テーマに東京都写真美術館の コレクションを 紹介します。

展覧会は 1924年に 宮沢賢治が 書いた 詩集『心象スケッチ 春と修羅』を きっかけにしています。

1924年を はじまりとして、美術館の コレクションを 紹介して います。

この 展覧会を 見ると、いろいろな 時代や場所で 生まれた 物語と 出会うことが できるでしょう。

写真と 映像による 時間と 空間を 超えた旅を、どうぞ楽しんで ください。



第一室 1924年ー大正13年

この 部屋では、今から 100年前の 1924年につくられた 作品を 紹介します。

1920年代、外国と 日本では、モダニズム芸術運動※1が 始まりました。

時代が 変わる中で、新しい 芸術を さがす作家たちが いました。

1924年は、関東大震災※2の 次の年で、東京では 古いものが 新しく 生まれ変わるところでした。

1924年に 作られた 作品を ならべて みたら古い 時代の 懐かしさや 新しい 感覚が 混ざり合った 芸術が 見えて きます。

※1 モダニズム芸術運動とは、今までの芸術を超えて、つぎの 新しい 芸術を つくり出そうという 運動です。

※2 「関東大震災」・・・1923年に 東京を中心に おきた 大きな 地震

第二室　昭和モダン街

この 部屋では、1930年代の 活気にあふれた、東京を 紹介します。
浅草や、銀座や、新宿のような たくさんの人が 集まる 街の 今から 約 90年前の様子をみることが できます。
新しい デパートの開店、オシャレな カフェ、映画館、展覧会、地下鉄の 開通など、現代の私たちも 知っている 都市の 文化の 多くが 始まった 時代です。

この 部屋には、雑誌『アサヒグラフ』で活躍した、大久保好六や、桑原甲子雄など 写真家たちが 撮影した 白黒の 写真が あります。
また、グラフィックデザイナーの 杉浦非水による、地下鉄道開通の 広告ポスターなど、昭和のはじめの 広告ポスターが ならんでいます。

第三室　かつて、ここで
ー「エビスビール」の記憶

この 部屋は、今、東京都写真美術館がある場所の むかしの姿を テーマに しています。
「恵比寿ガーデンプレイス」が ある この場所には、むかし ビール工場が ありました。
その ビールの名前「エビスビール」は、この町の 地名にも なりました。
いま、美術館が ある 場所には むかし、「せいばく とう※3」という 四本の 煙突がある建物が あり、町の シンボルに なって いました。
この 場所の むかしの 姿と、「エビスビール」の 歴史を、サッポロビール 株式会社が持っている 写真や 資料と 一緒に 紹介します。

※3 「せいばく」というのは、 ビールづくりのうち、麦芽を つくる ことで、
「せいばく とう」は、そのための 建物です。

第四室　20世紀の旅
ーグラフ雑誌にみる時代相

雑誌の 表紙は、その時代の顔です。
この 部屋では、写真雑誌 『LIFE』(アメリカ合衆国）や 『アサヒグラフ』(日本）の表紙で わかる 20世紀の 時代の 変化を、紹介 します。
また、フォトジャーナリズムを 代表 する写真家ユージン・スミス、 大束元 による オリジナルプリント※4も、見どころです。
〈スペインの村〉(1950年)は、ユージン・スミスの 代表作 です。
大束元の 高度成長期※5 の 写真は、日本が戦争の ダメージから 立ち直る 様子が わかります。

※4 オリジナルプリントとは、写真家が 自分の 作品として 認めた 写真プリントの ことです。
※5 高度成長期とは 1955年頃 から 1973年まで続いた 日本が 急速 に 経済成長をした時期のことです。

第五室　時空の旅、新生代沖積世

この 部屋は、宮沢賢治の 詩集 『春と修羅』の はじまりの言葉に 導 かれて、いろんな時間と 場所を 旅する コーナーです。
100年前の 写真と 現代の 作品を 時代を 超えて いっしょに 展示しています。
過去、現在、未来を 自由に 行ったり 来たりできる 世界を、宮沢賢治は 想像 していました。

宇宙の 時間の 大きな 広がりの 中でかんがえれば、地球の 一万年前も 今も、どちらも同じような 現代である。そのような かんがえかたが『春と修羅』には 書かれています。

賢治は、詩の 中の 世界で、遠い 未来から現代という 時代を 見ようとします。
この 賢治の 詩の 世界の ように 時間と空間を 超えた 旅を 楽しんでください。